

かしはらし シルバー人材センター かわらばん

NO.115 2023年7-8月号

5月末会員数:511名

(女性:178名・男性:333名)

会員平均年齢:75.1歳

発行責任者 間瀬 彰久

編集者 岡本 恵美

(公社) 檜原市シルバー人材センター 〒634-0075 檜原市小房町11番1号(かしはら万葉ホール東側)

TEL 0744-26-2560 FAX 0744-26-2561

『令和5年度第1回理事会が令和5年5月16日(火)

午前10時から檜原市中央公民館3階講座室で開催されました』

審議された議案は①第1号議案 令和4年度第2次補正(決算前)収支予算②第2号議案 令和4年度事業報告③第3号議案 令和4年度収支決算報告④第4号議案 監査報告⑤定款の一部改正、⑥事務費額の変更の他、令和5年度定時総会の招集手続きなど11議案と報告1件です。審議の概要は、令和4年度第2次補



正収支予算書では決算整理のための収支調整を行い、經常収益274,870千円、經常費用275,575千円を決算見込み額とし、当期經常増減額は▲705千円となり、正味財産期末残高は22,870千円となる補正予算が決議されました。令和4年度決算概要は、令和4年度末会員数は

前年度より24名減少して489名となり、会員の平均年齢は75.2歳、70歳以上の会員は413名(84%)で、新会員の入会平均年齢も70.8歳と会員の高齢化が顕著に現れてきています。延受注件数は前年度より190件減少して7,601件で、月間平均就業率は68.3%で、年間就業率88.8%と

なっています。契約額は221,616千円で前年度より4,989千円の減少となりました。一方派遣事業は、契約件数が前年度より7件減少して60件で、契約額は前年度より5,133千円増加して42,317千円となりました。事業収支では、

經常収益260,867千円、經常費用261,883千円となり収支差し引き当期一般正味財産増減額は△1,016千円(赤字)を計上し、年度末の正味財産期末残高が22,560千円

(内1,573千円は固定資産取得等として支出予定)となる決算報告が承認されました。また、監事より報告された監査報告についても承認されました。消費税インボイス制度施行に伴い事務費額を令和

5年10月以降12%、令和8年10月以降15%、令和11年10月以降20%と国の経過措置合わせ引き上げることが議決されました。定款の一部変更は定期総会

の開催時期を事業年度終了後2か月以内を3か月以内に改めることが承認されました。令和5年度定時総会招集手続きの件では、コロナウイルス感染予防対策は

緩和されていますが、会員が高齢であることを考慮し総会成立必要最小限での開催とし、令和5年5

月31日(水)午前10時から中央公民館3階講堂で開催することが承認された他、その他の案件も

承認されました。運営に関わって、事業高が2年連続で赤字決算となっており、会員の高齢化と減少傾向が顕在化してきており、加えて檜原市からの補助金も削減されているなど厳しい運営状況になっているため、また今回の総会で理事が半数交替されることから、令和4年の決算状況を踏まえ、令和5年度の事業計画をどのように推進していくべきか総会以降早い時期に理事会を開催しセンターが一体となった運営の方向性を協議すべきであるとの意見などが出されました。



《令和5年度定時総会が令和5年5月31日(水)午前10時から榎原市中央公民館3階講堂で
出席会員367名(当日出席者28名・表決書204名・委任状135名)で開催されました》

今年度の定時総会は、会員皆さんの理解と協力のもとコロナウイルス感染予防のため、予め会員から代表を選定し最小限の総会成立規模で開催しました。

総会では、加茂庚一理事長の挨拶に続き、総会議長に白檀町の下村武志会員、議事録署名人に石原田町の森川隆展会員及び北妙法寺町の田中公一会員を選出し、令和4年度

事業報告・収支決算報告・監査報告、定款の一部改正、役員選任の件が議案として審議され承認されました。
(決算概要は、第1回理事会報告を参照願います。)
総会で選任されました理事・監事の皆さんは次のとおり



です。(敬称略・議案提案順)

理事: 柘谷 進、竹森 正廣、菅生 重政、高木 元治、池田 博美、安田 善次郎、牧村 清美
宮本 利和、藤裏 卓司、樋上 圭子、丸橋 成行、中尾 益子、日裏 康夫、片岡 憲一
松南 宏次

監事: 下田 吉美、吉田 廣彰

総会終了後臨時理事会が開催され、理事の互選により、理事長に松南 宏次理事、副理事長に柘谷進理事、常務理事に日裏 康夫理事が選任されました。

総会では決算に関わって、安定した経営のため人件費や事業費の適正支出を求める意見がありました。また、報告事案として、令和5年度事業計画及び収支予算が報告されました。

その概要は、令和5年度事業計画は、シルバー人材センターは、地域の日常生活に密着した就業機会を提供することにより、高齢者の居場所と活動の場をつくり、生涯現役社会の実現を果たす役割

を担っていると共に、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進を実行することにより、認知症予防、医療費や介護給付費の削減に寄与していますが、人口減少の進行、少子高齢化は進んでおり、令和4年9月時点では高齢化率が29.1%となっています。新型コロナウイルスによる経済への影響や働き方改革を含めた生活様式も変容してきており、シルバー人材センターの



会員は重症化リスクが高い高齢者であることから引き続き感染防止を重視した作業環境が必要です。センターの継続的安定的事業運営には、会員の拡大、就業の拡大に取り組むと共に、高齢者のインターネット利用率の上昇に合わせ、デジタル化によるセンター業務の効率化に取り組む必要があります。

このような社会状況の中榎原市SCでは、高齢者の生きがい就業と企業・家庭等の現状を踏まえた様々なニーズに応え、地域の活性化に寄与するため、理念である「自主・自立・協働・共助」の実践を運営に活かすことを基本に

事業計画の大きな柱は、①組織活動事業(新規にデジタル利用の推進)

②会員拡大の推進(入会説明会での映像の活用を新規に)③就業機会の拡大

④シルバー派遣事業⑤福祉・家事援助、子育て支援⑥安全・適正就業対策事業(安全就業ニュースの会員共有化・飛び石対策としてのカルマー刈払機班設立を新規に)⑦普及啓発活動の推進が掲げられています。目的達成のため、会員と役職員が一体となった運営をお願いいたします。

令和5年度予算規模は、配分金収入が180,860千円、受取材料費24,000千円、受取事務費21,456千円、派遣事業等受託収益2,700千円、介護予防総合事業収益4,784千円、受取補助金等34,630千円を計上し、前年度当初予算より2,792千円減少し総額で270,100千円となり、費用は、支払配分金185,000千円、支払材料費19,450千円、その他プロパー職員の給与費用等を含み経常費用を269,100千円計上し、当期経常益が1,000千円となり、正味財産期末残高は25,070千円となる事業計画及び予算が報告されました。

0千円を計上し、前年度当初予算より2,792千円減少し総額で270,100千円となり、費用は、支払配分金185,000千円、支払材料費19,450千円、その他プロパー職員の給与費用等を含み経常費用を269,100千円計上し、当期経常益が1,000千円となり、正味財産期末残高は25,070千円となる事業計画及び予算が報告されました。



安全第一

